

31 J-CHEARS 研究

研究代表者名：小島太郎¹

共同研究者名：大内尉義¹、大橋靖雄²、および J-CHEARS study グループ

施設名：東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座¹、東京大学大学院医学系研究科疫学予防保健学講座²

本研究は50歳以上の高血圧患者を年齢階層によって4群（I群：初老期50～64歳、II群：前期高齢者65～74歳、III群：後期高齢者75～84歳、IV群：超高齢者85歳以上）に分類して追跡する大規模多施設コホート研究である。現在臨床の現場で行われている高齢高血圧患者の管理の実態を把握し、さらに5年間の追跡調査を行うことにより脳心血管疾患発症などのイベントとの関連を明らかにすることが期待される。さらに危険因子や降圧治療法、動脈硬化度、生活習慣、ADLなども検討することで、高齢高血圧患者の適正な治療・管理を見極めることができると考えられる。なお、血圧測定法や動脈硬化の評価方法（脈波伝播速度）については全施設において標準化（計測法の統一）を行っている。

登録は平成17年1月より開始し、平成18年3月31日に終了した。研究は公募で行われ、当初は参加施設を増やしていくことに非常に難渋した。しかしその後日本高血圧学会をはじめとする学会などでPR活動などを行った結果、全国の70以上の病院・医院などに参加していただくことができ、徐々に登録者を増やしていくことができた。全国の人口分布とはきれいな相関とはならなかったが、各地方の患者が登録され、全国で3203名を集計した。内訳は図1の通りである。各年齢群の分布については図2の通りとなった。女性の登録者が多く、またIII群およびIV群の人数が全体の約1/4程度となった。特にIV群については100人あまりであった。登録者の適格条件として、ADL良好で認知機能が正常、重篤な疾患（脳卒中、虚血性心疾患、ガンなど）を有していない、などの条件があったため、男性より女性が多く、また85歳以上の登録が少なくなってしまったものと考えられる。

現在5年間の追跡調査を行っているところであり、2年目～4年目の追跡期間に入っている。本研究は平

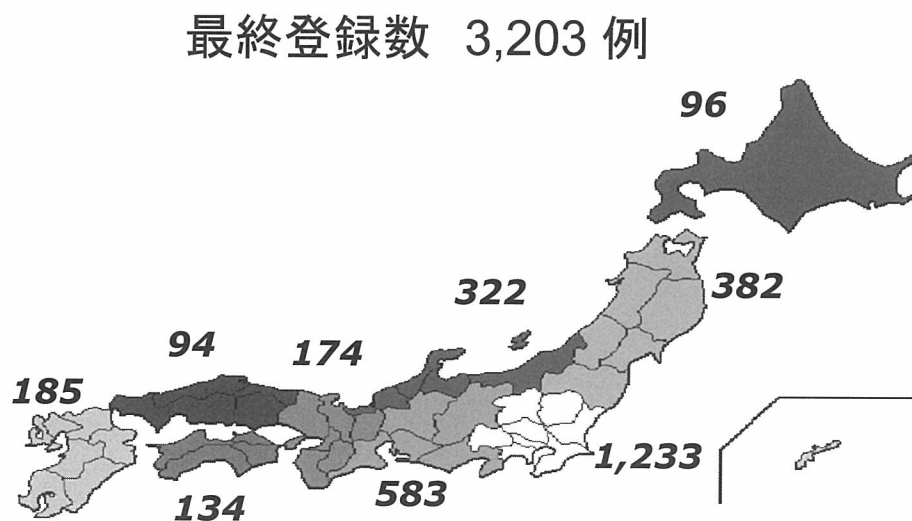


図1 登録者患者の地域分布

年齢分布

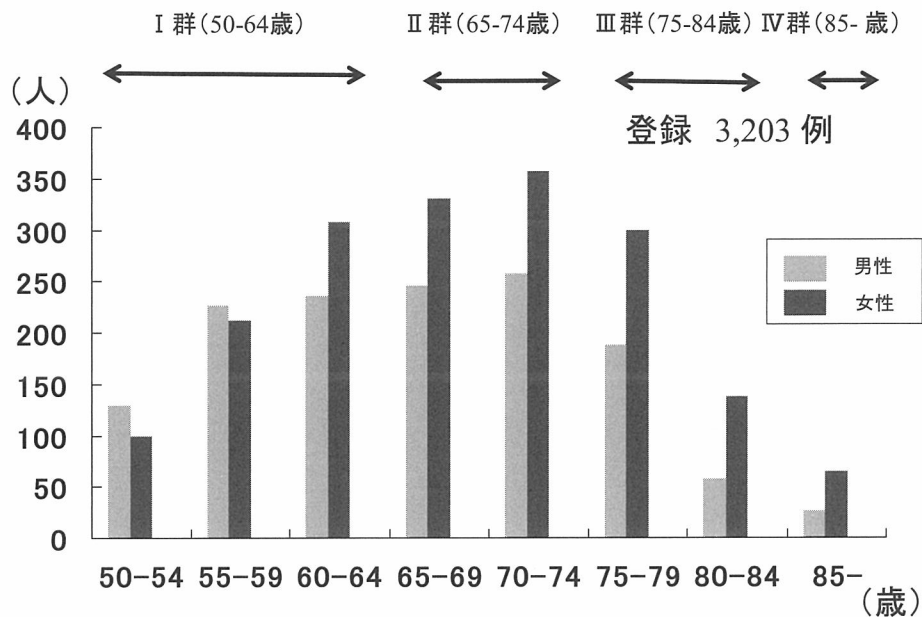


図2 登録患者の年齢分布

成 23 年 4 月に全患者の追跡を終了する予定である。

一方、ベースラインとなる初年度のデータの回収をほぼ完了している。今後登録時の血圧値をはじめとする各検査データの平均値、傾向などを探っていく予定である。外来血圧・家庭血圧や内服薬、血液検査データ、飲酒・喫煙、baPWV、高齢者の認知機能・ADL など多数のデータを集計しており、データのクリーニングなどの作業を経てベースラインデータの統計解析を行う予定である。日本国内で高齢高血圧患者が実際にどのような血圧値で管理されているか、どのような降圧薬が多く使われているか、年齢によって治療に特徴や差異が存在するのか、動脈硬化度が高齢者高血圧にどのような関連があるのか、本研究によりさまざまな情報が明らかになるものと期待される。

